

公開・国際シンポジウム「聖遺物とイメージの相関性 東西比較の試み」

はじめに

秋山 聰／富澤 かな

2007年12月16日、東京大学本郷キャンパス内、法文2号館1番大教室において、東京大学大学院人文社会系研究科グローバルCOEプログラム「死生学の展開と組織化」主催により、公開・国際シンポジウム『聖遺物とイメージの相関性 東西比較の試み』が開催された。これは21世紀COEプログラム「死生学の構築」主催により2006年12月15日に開催されたシンポジウム『聖なるイメージ 彼岸とのコミュニケーションの手段として』の成果（『文化交流研究（東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要）』第20号（2007年）、p.58-146参照）を踏まえたものであり、またグローバルCOE主催によるシンポジウム・シリーズ「死生と造形文化」の第一弾にあたる。以下は、このシンポジウムの報告である。四氏のご発表および企画者からのコメントの後、およそ1時間半に亘りディスカッションが行われたが、今回は残念ながら紙数の関係上、その詳細の掲載は見送らざるを得なかった。なお現在別途編集の英語版にはディスカッションも掲載の予定である。また「死生と造形文化」シリーズの第二弾として2008年5月31日に開催されたシンポジウム『礼拝像と奇跡 東西比較の試み』についても、次年度に日本語、英語両版の報告書の刊行を予定している。

本シンポジウムの開催にあたっては、グローバルCOE内外の数多くの方々から様々に貴重なご助力・ご助言を賜った。個々にお名前を挙げることは差し控えさせていただくが、この場を借りて、篤く御礼申し上げます。

秋山聰／高澤かな

はじめに

(あきやま・あきら 東京大学大学院人文社会系研究科准教授／グローバルCOEプログラム事業担当推進者)

(とみざわ・かな グローバルCOEプログラム特任研究員)